



学校だより 7月号

～豊かで調和のとれた子の育成～

た くましく生きる人 な かよく生きる人

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>



みのたなくん

子どもの学力向上に向けての取り組み

副校長 井上 和浩

保護者の方にはあまり知られていないかもしれませんが、校内重点研究会と称し、教員は指導方法の改善に向けて研究に取り組んでいます。

年間の計画をもとに6月17日(木)に外部の講師(元校長)を招いて第1回目が行われました。授業を見て、放課後、研究会を開きます。年によって研究する教科は変わります。(同じ教科を2年ないし3年続ける場合もあります)今年の教科は国語で、あと4回計画されています。

(第1回目 授業風景)



研究ですので次のようなテーマを設定しています。

「自分の思いや考えを豊かに表現する子の育成」
～読むことを通して自分の考えをもち、

互いに伝えあう国語科学習を目指して～

このテーマに迫るために様々な手だてを授業で講じます。その後の研究会で児童の学びにどのように結びついたかを話し合います。

授業では、課題に対しまず考える時間を取ります。その間、教師は机をまわり、助言したり考えを聞いたりします。子どもたちは自分で考え、結論を出すかまたは自分の考えをまとめます。そして、次にいよいよ友達に伝えます。発

表の時間です。保護者から「うちの子はあまり手を挙げないんです。」という声も時々耳にします。もちろん発言の有無も大切ですが、まずは自分の考えをもつことを授業の中では大切にしています。

話し合いをしたり、みんなに伝えたりすることで、友達の考えと自分のそれを比べ、見直します。足したり、変えたりして磨きをかけるわけです。中には磨いたけど自分の考えは最初と同じということもあります。このような積み重ねを通し、学習への理解を深めていきます。

そもそも「人はなぜ学ぶのか?」「なぜ勉強しなければならないのか?」

『10歳の君に贈る、心を強くする26の言葉』(岩村太郎 著 えほんの社)には「勉強するとこれからの人生の選択肢が広がるからだよ」と書かれています。

哲学者のフランシス・ベーコン(1561～1626)は、「知は力なり」と言っています。

本来、勉強することは楽しいことのはずです。AIが生活の中に取り入れられ、今ある職業の幾つかはAIにとってかわられると言われていきます。そうなっても、人は学び続けることでしょう。なぜなら、先述の通り学ぶことは楽しいからです。

子どもたちがますます学習を好きになり、自分のよさを多くの場面で発揮していってくれることを願っています。そして、自ら学ぶことの楽しさを感じ続けることができるよう研究を重ねていきたいと考えています。

6月の授業参観は残念ながら中止になりましたが、9月に予定されている授業参観でどのような思いをもたれるか、保護者の皆さんの声を聴かせていただけると幸いです。